

AI 営農支援システム

Growth eye®

『稲が語る 新たな世界。』

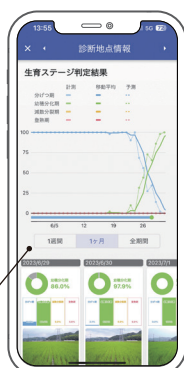
画像はイメージです

AI が感覚の世界をサポート。農家様と JA 様が稲と共に未来への道を拓き、持続可能な農業を実現。

Growth eye サービス全体像



農家様



スマホアプリ

AI が診断した情報を収集

営農指導 情報発信 など

情報収集

Growth eye Field™

写真から、稲の生育ステージと
茎数を AI が診断



JA様



管理

Growth eye Board™

地図上に表示された情報から
管区全体の状況が一目でわかる

(「Growth eye Field」、「Growth eye Board」は商標登録出願中です)

導入効果

導入前



- ④ 圃場調査・管理の人員不足
- ④ 農家様への情報伝達経路が整ってない
- ④ JA職員様同士の情報連携不足
- ④ 新規サービスの導入で業務負荷が増加するのは避けたい

導入後



- ④ 調査が必要な圃場がわかる
- ④ お知らせ機能でタイムリーな発信を実現
- ④ 情報が蓄積されるため連携がスムーズ
- ④ カンタン操作で新たな業務負荷がない

株式会社NTTデータCCS

(特許第6768767号X特許第6638121号)

詳しくは裏面をご覧ください

Growth eye とは？

今まで見えなかった圃場ごとの状態を可視化し、きめ細かな対策・指導・分析を可能とするサービスです。

3つの特長



AIが画像を診断し、稲の生育ステージや茎数を判定。従来よりも迅速かつ正確に生育状況を把握し、適切な対策を講じることができます。



農家様が**Growth eye Field**で撮影した写真をAI診断するだけでデータが自動で蓄積。JA様・農家様の負担を軽減します。



Growth eye Fieldから取得した情報を地図上に表示。現地に毎回出向くことなく、管区内全域の最新情報を把握することが可能になります。

※画像はイメージおよび開発中の画面です

活用イメージ

管区内の
見える化



- ✓ 稲の状態に応じた対策
- ✓ 圃場で何が起きているのか把握

適期を逃さない
稲づくり



- ✓ 稲の生育状態を把握
- ✓ 気候変動に左右されない米づくりに活用

指導員の
作業効率化



- ✓ 茎数計測業務を軽減
- ✓ AI の活用で経験の差によるばらつきを削減

よくあるご質問

Q

IT 操作が苦手な人でも使えますか？

農家様

Growth eye Fieldはアプリのガイドに従って写真撮影をするだけで、簡単にAI診断をすることができます。IT操作が苦手な方でも簡単にご利用いただけます。

Q

導入することでさらに業務が増えそうで不安です。

JA様

Growth eye Boardは可視化された情報を基に管区内の状況把握、対策策定を行うことを目的としております。そのため操作は最小限としておりますのでご安心ください。

Q

どの品種が対応していますか？

農家様 JA様

代表的な品種と地域に対応しています。農業試験場などにご協力いただき、全国さまざまな品種をAIに学習させています。品種ごとに独自のAIを作成することも可能です。

お問い合わせ先

株式会社NTTデータCCS ビジネスソリューション事業本部 ソリューションビジネス推進室

NTT Data
株式会社NTTデータCCS

お問い合わせフォーム : <https://www.nttdata-ccs.co.jp/contact/form.html>

E-mail : info-growtheye@hml.nttdata-ccs.co.jp

お問い合わせ
フォーム



●Growth eye® は (株)NTT データ CCS の登録商標です。●サービス内容・仕様、お問合せ先などの情報は予告なく変更される場合があります。